

令和6年度 鹿児島県循環器病対策推進協議会 議事概要

日時：令和7年1月27日（月） 午後6時～午後6時45分

場所：県庁2－保－1会議室（行政庁舎2階）・オンライン併用

【内容】

- 1 開会
- 2 会長選出・副会長指名
- 3 報告事項
 - (1) 本県の循環器病の動向について
 - (2) 本県の循環器病対策の取組について
 - (3) 脳卒中・心臓病等総合支援センターについて
- 4 意見交換
- 5 その他

【出席者】

(委員)

別紙「出席者名簿」のとおり

16名出席（会場4名、オンライン12名）／委員数21名

（事務局）

健康増進課：大小田課長、和田技術補佐、東條主幹兼健康増進栄養係長、
中村主査、上村主事

（関係課）

別紙「関係課出席者名簿」のとおり

【議事】

- 会長選出・副会長指名
 - ・ 会則に従い、委員の互選により、鹿児島大学心臓血管・高血圧内科教授 大石委員が会長に選出された。
 - ・ 副会長は会則に基づき、大石会長より、鹿児島大学脳神経外科学教授 花谷委員が指名された。
- 報告事項
 - (1) 本県の循環器病の動向について
資料1に基づき、事務局から説明を行った。

【主な意見】

(大石会長)

- ・ 心疾患、脳血管疾患の死亡率は高いが、全国平均よりも少し高い。
- ・ 受療率はかなり高いので、治療が進歩してきたが、予防はまだ余地がある。
- ・ 治療に関しても、全国平均より高い分野も数多くあるので、引き続き取り組まな

ければならない。

(松岡委員)

- ・いつも南薩地域の脳血管疾患の死亡率のSMRが高いと聞かれるが、理由が分からぬところがある。
- ・予防に脳出血の血圧管理が重要か、心房細動の管理などの治療が重要かを考える上で、脳出血と脳梗塞とに分けてSMRを出すことができるとよいのだが。

(事務局)

圏域ごとに脳出血と脳梗塞のデータが出てくれば算出は可能である。

(2) 本県の循環器病対策の取組について

資料2-1, 2に基づき、事務局から説明を行った。(委員からの発言なし)

(3) 脳卒中・心臓病等総合支援センターについて

資料3に基づき、大石会長から説明を行った。(委員からの発言なし)

○ 意見交換

資料4に基づき、事務局から説明を行い、意見交換を行った。

【主な意見】

(大石会長)

- ・1 「循環器病の予防の取り組みの強化」の「高血圧について特定健診等の県の現状と問題点」は、鹿児島大学がデータを出しているが、鹿児島県が全国で一番血圧が下がっていて、特定健診の血圧が全体で1ぐらい下がっている。他県は0.2までは下がっていない。下がったのは数県程度である。
- ・本県は、特定健診レベルでは、血圧の取組は、成功している県の1つで、これを続けていく必要がある。
- ・2 「離島・へき地を含めた循環器病の医療、介護及び福祉等に係るサービス体制の充実」の「CCUネットワークの当番表」は、鹿児島大学が作成している。CCUネットワークが今から20数年前にできたが、当時は、心臓カテーテル治療(以下「心カテ」)ができる病院が少なく、輪番制を引いた。
- ・現在は、当時と比較して、心臓カテができる病院が増えたので、セーフティネットワークとして利用している。CUUネットワーク自体、あまり大きな意味を持たなくなってきた。

(松岡委員)

- ・CCUネットワークの話があったが、脳卒中にはネットワークがない。
- ・その中で、MC協議会と共同で、脳卒中の搬送プロトコールの改定を行い、搬送先の選定について調整を進めている。
- ・県の保健医療計画に基づいて県のホームページに、脳卒中に対応する施設が掲載されているが、それが救急搬送の状況の実態に伴ってない。
- ・整合性を取っていくのか、脳卒中の搬送においての課題。
- ・脳卒中に関しては、今後、治療実績報告を義務付け、実績に伴った搬送先の選定

を進めていこうと検討している。

(大石会長)

- A C Sに関しては、全県でレジストリーを作っていて、発症した患者の92%ほどのデータが登録されている。どの地域の患者さんがどの病院に行って、その患者さんが適切にそこへ到達しているかどうか或いは予後が正しいかどうかを含めて、解析ができる状態。
- 今年度から種子島にも心カテができる病院を作ったので、少しずつ、心カテができるようにして、死亡率の減少に努めている。小さい離島までは難しい。その辺りをどうバランス取るかは、レジストリーで少し見えてくる。

○ その他

(花谷副会長)

- 脳卒中学会では、脳卒中医療に対して、積極的に取り組もうと、ご存じの通りPライマリーストロークセンター（P S C）というのを登録し、県内を網羅するような形で、20数施設設置している。今後、診療だけではなく実態調査を含めて、取り組みたいと考えているが、P S Cの中でも、多くの症例があり、支援も整っているP S Cコア施設の代表もこの会に委員として参加をお願いできればと考える。

(大石会長)

- 鹿児島市立病院の脳神経外科部長西牟田先生が、積極的にP S Cでの活動をされているので、脳卒中についてさらに詳しくなり非常に良いかと考える。
- メンバーに加わってもらい、協力をもらえれば。

会長は、意見交換後、議事が終了したことを告げ、司会者（事務局）は、以上をもって本日の協議会を終了した旨を述べ、閉会した。